

第4回八代市文化ホール等あり方検討会 会議録

開催日時	令和2年12月25日(金) 10:00~12:00
開催場所	代陽コミュニティーセンター 研修室

■出席委員

会長	本田 恵介	委員	岩崎 布見子	委員	多田 満
副会長	丁畑 幸美	委員	柏 昭子	委員	中山 英朗
委員	水本 和人	委員	森山 学	委員	石本 愛

■欠席委員

委員	川村 健治
----	-------

■市出席者

職	氏名	職	氏名
経済文化交流部長	中 勇二	厚生会館館長	林田 安夫
経済文化交流部次長	一村 勲	厚生会館主査	坂梨 英司
文化振興課長	鋤田 敦信	建設部営繕課長	松野 光洋
文化振興課長補佐	下津 恵美	建設部営繕課係長	秋野 亮二

■その他の出席 なし

■傍聴者 なし

■協議事項

協議事項 (1) 厚生会館の劣化度調査中間報告及び各施設の今後の改修の見通しについて (2) 八代市文化ホール等あり方に関する報告書(案)について その他 八代市厚生会館視察

■会議録(要約)

【はじめに】

①会長挨拶

(1) 厚生会館劣化度調査中間報告及び各施設の見通しについて

【事務局より説明】

【委員】

これまで議論をすすめる中で、改修費用が一体どのくらいかかるのか示されて

おらず、なかなか議論しにくかった。今日は概算が出たということであるが、そもそも厚生会館はお堀のところに建設されている。改修計画の中で床の地盤沈下のことに触れられていたが、地盤が悪ければそもそも改修は可能なのか。地盤の補強はできるのか。またその補強の金額はこの概算には入っているのか。

【事務局】

厚生会館の劣化度調査について、今回の報告はあくまでも概算であり改修の内容などはまだ詳しく出ていない。地盤についての改修費用は、あくまでも今の厚生会館の沈下した部分の改修しか含まれていない。改修方法なども出ていない。内容も今から詰めていく。金額にも入っていない。

【委員】

そもそも地盤の改修は可能なのか。史跡に入っていると思うが。

【事務局】

おっしゃったように国の史跡の指定の部分なので国の許可が必要であり、厳しい部分となると思う。

【委員】

そういうことも踏まえて議論することとなるだろう。

今日は〇〇委員から資料が配布されているので、〇〇委員より説明をお願いしたい。

【委員】

前回欠席していたが、議事録で厚生会館の問題が上がっていたので資料を準備した。判断基準のポイントとして、一つは補強改修についてであり、どのぐらい経費がかかるのか、今後維持にどのくらい費用がかかるのか。もう一つは施設の建築文化としての観点からの判断基準が必要であると考えて資料を準備した。準備した資料は、一つは厚生会館について、もう一つは鏡文化センターに関するものである。

厚生会館の建築文化としての価値であるが、ポイントが2つある。一つ目はこの場所にふさわしく作られているということ。八代城三の丸から外堀武家地にかけて作られているが、近代建築であるにもかかわらずその場所をうまく継承

していくことの試みがされている。同じく、目の前の道路が、城下をぶち抜いて八代港に向かっているが、これは八代が新産業都市となっていくときに重要港湾八代港へ繋ぐために拡幅された道路である。そこに厚生会館を建てたということが新産業都市としての象徴であり、そこに文化の殿堂を作るんだという考えがよく表れており、江戸時代の文化と未来に向かっての文化の二つを象徴する建物として作られている。

もう一つ、建築家の芦原義信さんは世界的に著名な建築家であり、彼が世界的に評価されるようになった外部空間論という建築思想の出発点が厚生会館にあることが重要である。この厚生会館を作りながら外部空間に関する書物を出版しており、その書物に書かれている内容と厚生会館の設計手法については一致するところと一致しないところがあり、そういった意味でもこの厚生会館が外部空間論の出発点であり、外部空間論を試行的にやっていたという作品として重要な位置づけにあると思う。

この二つの点がこの厚生会館の建築物としての価値としてある。

外部空間とは広場を作るということであるが、八代城の本丸広場の輪郭として位置付けている。建物のデザインの中にも、お堀のデザインを取り込んでこの場所をうまく生かそうとしている。その中に近代建築ならではのデザインを合わせているのがポイントかと思われる。

50年経過しているので登録文化財として十分狙える建物であると同時に、ドコモモという世界の近代建築を保存し調査していこうという活動をしている雑誌の日本支部（ドコモモジャパン）の方で厚生会館をどうにかならないかという話題が市外の方から相談されているという状況で、それだけの価値がある建物であると思っただいてよいかと思う。

もう一つ私の講演会の発表スライドの資料で、八代厚生会館のその後という内容で伝承館の模型写真を載せている。そもそも伝承館の設計の時には厚生会館の本館があつての設計条件になっていたため、もし本館がなくなれば設計条件そのものが変わってしまつて建物が本来意図したものと別物になっていき、これは物事の進め方としてまずいと思う。

最後のページで八代城跡群保存活用計画、八代市景観計画、八代市歴史文化基本構想というものがあるのでこれらを踏まえて厚生会館の位置づけをしっかりと検討した上で進め方を判断する必要がある。

八代市景観計画でいうと景観重点地区候補になっており、八代市歴史文化基本構想でいうと歴史文化保存活用区域となっている。歴史文化基本構想で言うと、

歴史文化遺産を活用したまちづくりというものが掲げられている。単に古い建物だから駄目だというわけではなくてそれを生かしてまちづくりに繋げることが重要だと思う。

鏡文化センターについてはまた後に説明する。

【委員】

(厚生会館は) 熊本県内でも一番古い文化ホールではあるが、今、〇〇委員からの説明にもあったように、文化を発表する場としての厚生会館であるというだけでなくその建物自体が歴史的にも空間的にも価値があるという話だったと思う。以前にもこの点については触れていただいていたと思うが、そういったこともふくめて、皆さんからご意見をいただければと思う。

【委員】

今〇〇委員の話聞いて、なるほどだなあと思った。やはり八代の文化の中心はあの八代城の一带かなあと思う。改修の話もあるが、〇〇委員の意見を聞いて、歴史的にも価値のあるものなので残していかなければならないとつくづく思った。伝承館と一体的なものとして考えていく必要があるという思いが強くなった。

【委員】

歴史的な背景も含めて考えていかなければならないのかなと思う。ただし、舞台を使う人にとって今の施設が使いやすいのかどうかということも考えなければならぬ。

椅子が窮屈という理由で、改修すると客席数が約2割ダウンになるとのことであるが、我々が求めるいろいろな催し物を持ってくる場合、今の現状ではなかなかプロの方に来てもらえず採算性の少ない施設だと認識している。ただ、これをまちづくりの中心として残そうという気持ちもあるので、なかなか結論は言えない。今日は概算等も出たので持ち帰って検討したい。

【委員】

皆さんの意見のとおりだが、八代市民としては思い出が深い厚生会館である。いろんな時代の流れで、なぜ厚生会館の前の池がなくなったのかという理由もあるだろうが、歴史的な建物ということなので、伝承館とマッチングされたデザインになっているので、最悪の場合でも外観は古くても中は新しくという発

想で残すのがいいのではないか。さらに八代市の30年後の人口を考えたときに1000席にこだわる必要があるのか。鏡や千丁にもホールはある。改修したときに約700席という数値があるが、将来的に人口減少を考えたときに立ち見を含めて1200席にこだわる必要はないのではないか。時代の流れに則れば700席弱の座席でも、市民がくつろいで鑑賞できるという発想であればこれでいいんじゃないか。

外は歴史的な建物、中身は最新の設備という方向もありと思う。あと20年後まで使うとした試算ということであるが、30年後の人口減少を考えれば歴史的な建物を継承しながらやっていくのも一つの手ではないかと思う。

興行的によそから呼んだときに、興行主は採算を取りたいということであれば、熊本市内に大きなホールはある。八代市の文化事業としては、より優れたものをセレクトして少人数でも楽しめる企画をあてて、その反面、1000人や2000人の規模の催しよりも充実した催し物をよそから見てもらいに来ってもらうように発想の転換をしたらどうかと感じている。

【委員】

私は現場の人間として、建物の価値は専門家の方の意見を聞くと、なるほどなと勉強になるが、やはり次世代のことを考えていきたい。今のままでは若い者に相当負の遺産を残してしまうことになる。今はこのように困難な危機の時代であり、とにかく表面だけ、建物だけ残しても機能しないような、形骸化してしまっただけはいけない。ホールとしてはどうなのか、そこを考えていただきたい。500席くらいの会館だったら桜十字ホールでもやれている。とにかく若い世代のために考えていただきたい。この八代も過疎になるが、しかし過疎の町にも未来はあると思う。戦後日本がここまで来たのも、アメリカのマッカーサーが入ってきて強制リセットされてから変わった。もっと他県と団結し、連携して、文化の力で繋がるものを信じたいと思う。

厚生会館の今の状態では、楽屋は本来は舞台の人数よりも多く使うはずなのに、全く機能していない。それだから隣接する伝承館には楽屋兼の部屋を作ってもらうように設計士にお願いした。そのマッチングの親元がなくなるのはどうかという話もあり、そこも考えなければならない。

58年たって時代はすっかり変わっている。伝承館も来年夏完成の予定だが、これも市民が頑張って守っていかなければならない。お互い足を引っ張らないようにするためにはどうしたらいいか。本当は厚生会館を残して欲しいが、座席数が2割減る。示された概算額をかけて改修したとしてもどうかなと思う。

有名な建築家が建てられた建物ということで価値もあると思う。場所としては最高なのであるが、もっと子供たちに負の遺産を残さないようにしたいと思う。

【委員】

なかなか意見がまとまらないところではあるが、今日、厚生会館の改修費用がどの程度か、座席がどのぐらいになるのかを気にしていた。

座席数が734席、固定が652席となると他のホールにさほど変わらない大きさになる。私は演奏する側として、実際厚生会館で演奏会をするかといったら、まず今、4つのホールのなかで厚生会館は選ばない。これはみんなほとんど同じ意見である。それはなぜかというと、古い、使いにくい、が一番にあって、最初から〇〇先生がおっしゃっていたように昭和の建築工学を反映していると言われていたのでそれをずっと考えながらきたが、外観はとても考えてあるということで、もし残すのであれば、こういう使い方ならありかな、ということ、中はレトロモダンな感じ、古いけど格好いいね、すごいね、という、最近よくある古民家を改造するような感じで、落ち着いて使えれば厚生会館もいよいよねって感じになるかもしれないと思う。改修費用としてどうしても設備関係にお金がかかる。それ以上に今の状態から変えるとしたらもっとかかるはず。地盤の問題も傾いているとなれば、想像しきれない値段になるのかなと思うし、果たしてその値段をかけて改修してもどうなのかともある。こういう大きい額はとても想像のできない額なので何とも言えないが、他のホールの改修工事に2億から6億程度かかるということで、これはどうしても必要な改修だと思い、この程度で済むんだと思ったり、厚生会館については当初から駐車場の問題もあるし、伝承館ができたとしたら駐車場はどうするんだと思う。そんなに大人数が押しかけるような伝承館の状態ではないと思うが、厚生会館を残すとなれば駐車場の問題はあろうと思う。ただ発表の場としては今の状態では厚生会館は使いにくいというのはある。

【委員】

先ほど〇〇委員の話聞いて、建物の価値、あの一帯が図書館や博物館、八代城跡があって、場所としてはとてもいい場所なので是非残していけないかと考える。建物にこだわる必要はないのかなと最初は思っていたが、大事なのは文化芸術をどうやって守っていくか。歴史ある建物を残しつつ、古い文化を守りつつ新しい文化を取り入れていくという象徴にするためには厚生会館の外観を残して、中は今の時代にあったバリアフリーの施設を作って、なおかつ市民が

集いやすい場所に変えていかないと、いくらお金をかけてリニューアルしても使う人がいなければまたポツンとなってしまう。

厚生会館を壊してしまった時に伝承館だけお客さんは来るのか。お祭りは一回見ればそれでいいので、そこにお客さんが集まるのは数年で終わると思う。やはり厚生会館を残して、そこを文化芸術の新たな発信する拠点として考えていく必要があると思う。もっと若い人たちや子供たちから親しまれる、駐車場や出入りの部分も危険なので大幅に変えてしまって、リニューアルしてしまうと、若い子育て世代の人たちがクリスマスイベントやハロウィン、eスポーツなど。本町の方にも YouTube で発信していくための場もできたりしているので、YouTube で発信していく市民団体を活性化させるためにも、前向きな方向で使っていけるように残していく必要がある。

【委員】

私が一番懸念しているのは、人口減少が顕著であることと、これから先の文化の創造の形態が少し変化するのではということ。発表する場でもあり、情報を発信する場として若者が集まって、そこでどういう文化を創造していくか、そういう厚生会館の使い方があるのではないかと思う。

〇〇先生の話を知ると、昔の地図の上に建っている、とても稀有な建物で文化的な価値がある。考えてみれば八代城址がそこにあるわけで、あれも江戸時代の文化遺産であり、厚生会館を考えると近代建築の文化遺産である。二つの遺産が並んで同じ位置にあるというのは視点を変えればすごいことだと感じた。私はこども劇場で子供たちに生の舞台芸術を見せる活動を40年間してきたが、保護者の方が言われるには、厚生会館は自分たちが子供のころに行ってカルチャーショックを受けた場所であり、今後もし新しい形にリニューアルされたらやはり子供を連れていきたい。人口減少であれば座席についてはやはり改修して、700席になっても子供が使うには十分だと思うし、学校全体での教育として文化を享受する場所として利用できるのではということだった。

私自身はこの空間や場所をもっと総合的に使用する発想の転換をしないとけないと思う。建物を建てたから終わりではない。新しい市庁舎もでき、ここに全部が集まっているので、交通の問題も含め地域全体を開発していく拠点にしていけばいいと思うし、厚生会館の外観を残すことは賛成である。

【委員】

これまでの3回の議論を振り返ると、今の厚生会館を残したいという意見もあったが、一方でこれから先の八代市を考えたときにもっと外からの人の交流、もう少し大きな施設を作って外から呼び込むのもいいんじゃないかという意見もあったかと思う。

今日△△委員が欠席されているが、イベンターとしていろんなイベントに携わっておられることから、仮に厚生会館を残すか建て直すかを考えたときに、イベントを主催する側としてどのくらいの規模のホールだと採算がとれるのかということを事務局から事前に聴いていただいているので、説明をお願いしたい。

【事務局】

イベンターとしての立場から、八代市に商業ベースで人を呼び込んで活性化させるという視点から見たときに、ホールの客席数がどのくらいが必要かをお尋ねしたので報告する。

500席の場合、900席、1200席、1500席、の場合で、チケット3000円、5000円、7000円に設定した際どのくらいの経費をかけることができるかを示していただいた。

利益が20%として80%を経費に充てられるとした場合、チケット代を3000円にしたときに、500席であれば経費は120万円、900席で経費216万円、1200席で経費288万円、1500席で経費360万円となる。同じく、チケット代を5000円にすると、500席で経費は200万円、900席で経費360万円、1200席で経費480万円、1500席で経費600万円

チケット代7000円であれば、500席で経費280万円、・・・1500席で経費840万円、となる。

つまり、経費にかけられる予算が高いほど、よいアーティストやコンテンツを招聘できる可能性が高まり、客席数が少ないほどチケット価格は高額になる。よいコンテンツを安価で仕入れるのは難しく、チケット価格が安いほど、チケットをたくさん販売しなければならない、ということであった。

また、良いコンテンツに対してそれ相応のチケット価格を払うという文化には、市民の意識向上が必要であるとのこと。

しかし客席数が多ければいいというわけではなく、客席数が多いと維持管理経

費も掛かるし、宿泊や交通などの整備も必要となる。また文化意識を向上させるためのスポンサー企業の協力も必要とのこと。

結論として地域事情や税法、管理形態を想定した総合的な分析が必要であり、△△委員個人の意見としては、1500席前後と500席前後の会館二つがあるといいのでは、とのことであった。

【委員】

あくまでもイベントを主催する側からの意見だったかと思う。今あったようにホールはさまざまな使い方がされるわけで、皆さんが主にイメージされるものでいろんな考え方があると思う。

私は、各委員さんの話を聞いていて、厚生会館の建物としての価値を残せないかという意見が一致していたのではないかと受け止めた。じゃあこれから30年後のことを考えたとき今の施設を改修して残すのがふさわしいのかどうか、市の方は将来のことも考えておられると思うし、文化施設だけでなく、八代市がどういう方向に進もうとしているのか、そしてその中で文化施設をどうしていったらいいか計画されていると思う。

私は熊本市の人間だが、私の目から見て八代市は子どものころから県内第2の都市であったし、交通に関しても高速道路もとおり、新幹線も止まり、しかも県内最大の港もあり、外からの流入人口について可能性がある。そしてやはり歴史文化も残っているところであり、何とかこれを生かして、人口減少を少しでも食い止めるために次の世代の子供たちが希望をもってこの土地で生きて頑張っていくためにどういうものを残したらいいか、それを考えるのも必要かと思う。

この場は色々な分野の方からご意見を聞かせてもらいたいと思うのだが、市の方では今後の市の発展のためにどういうビジョンを描いておられるかを聞かせてもらえるとありがたい。

【事務局】

ビジョンまではまだ辿り着いていない状況である。まずはこの検討会でのご意見を市長に報告して今後また具体的な方針案を立てさせていただきたいと思っている。

ただ、この劣化度調査の中間報告の金額は正直衝撃的な数値であった。今年はコロナから始まり豪雨災害、今後の復興復旧という大きな命題が残っている。

この中で市の総合管理計画で最長80年が大体の目安で厚生会館は約60年が経過していてあと20年の概算額が出た。これがどういう金額かというとなんとも言えないが、負担はかなり大きいと思う。費用と効果を考えたときには厳しいのでさらに今回の調査結果を踏まえながら方針を決めていく必要がある。今日のご意見を踏まえ建物の価値とホールとしての機能のバランスを考えていく必要がある。

【事務局】

こういったビジョンという、まさにそこを作る時期だと思っている。今回厚生会館が老朽化していることから喫緊の課題としているが、今後10年、20年、それ以上の期間を考えたときに、八代市の文化振興、文化施設の運営についてどうやっていくかを今回意見をいただいて市がビジョンを示していくことになる。災害やコロナで市の財政は大変厳しい状況であるが、もっと先の未来のビジョンを示していきたいと考えている。

【委員】

私は劇場に努めていることもあり、県内の文化施設については足を運ぶことが多い。今年の6月に玉名市が古い施設を壊して新しく800席ぐらいの固定席がある大ホールと、ロールバック式で椅子を移動して並べることのできる小ホールの二つのホールをもった施設を作られた。先日行ってきたのでそのパンフレットを皆さんに見ていただきたい。最初に〇〇先生からは建物の価値を話していただいたのでそれは十分ご理解いただいたと思うが、やはり実際に劇場ホールを活用されている方からは使いにくいなどの声もあるので、最近できた県内のホールだとどんな感じかをイメージしていただけたらと思う。

バリアフリーの問題や椅子の大きさの問題も話に出ていたと思う。また特に出ていなかったが、女性用のトイレの数がものすごく多くなっている。かりに厚生会館を改修するとしたら限られたスペースのなかで見直していく必要があるが、ここは新しい施設でそれらもかなり根本的に解決しているのかなと思う。

協議事項1に関して、もうひとこと言っておきたいという方がおられたらどうぞ。

【委員】

先ほども外観はそのままで中身を充実して伝承館と一緒に継承という話をしたのだが、市にお尋ねしたいのは、座席を改修したあと、立見席を入れて収容人数は何人になるのかと、今後20年使用するとしたときに八代市の人口が年齢層も含めどういう形態になるのか、出生率も踏まえたところで教えていただきたい。

▽▽委員さんも言われが、ホールの使い方として、今、保育園などでも園内では発表会がほぼできない。なぜかという子供を含めて保護者、おじいちゃんおばあちゃんも来るため、70世帯であってもハーモニーホールでも満席になる。よその保育園も園内では発表会ができずホールでということが増えている。厚生会館が休館中なのでひかり保育園では鏡文化センターで数回に分けて行っている。代陽校区にはホールを備えた公民館がない。八代校区はそんなに広くないけどある。太田郷校区にもある。千丁には八代市公民館で500席のホールがある。厚生会館も座席数が減っても、公民館を兼ねたホールとして、多額の改修費用はかかるかもしれないけど、次世代を育てるために使える間は使ったほうが良いのではないかと思う。先ほど△△委員から大きなイベントで採算がとれるかどうかの話もあったが、果たして今後八代でそんな1000人、2000人規模のイベントが来るかといったら私は経験上たぶん来ないと思う。来ても熊本止まりである。熊本市内にホールもほかにたくさんある。そっこのほうで止まってしまわないか。なので八代としたら文化伝承をふくめて▽▽委員が言われるように小さなホールで、身の丈に合った維持管理をやっていったらいいと思う。

(休憩)

【委員】

(参考として新玉名市民会館の総工費についての説明あり)

【委員】

八代市より人口規模は少ないのではないか。

【委員】

少ないです。どのぐらいの規模にするかは関係者の中でも議論はあったと聞いている。

【委員】

玉名市には他にホールはあったのか。

【委員】

小さい施設はあると思うが、八代に4つあるような施設はなかった。合併はしたが、岱明、横島、天水にもなかった。

あくまでも参考として聞いていただきたい。

今までの皆様のご意見を聞いて、それぞれ活動している分野も違うので一つの方向に話をまとめることは難しいが、ただ、現在の厚生会館へ思いは熱く、そういった歴史あるものをなんとか残せないかという思いがあられるので、是非市の方でも参考にしてもらえればと思う。

(2) 八代市文化ホール等あり方に関する報告書（案）について

【事務局より報告書（案）の説明】

【委員】

これをまとめて市長へお渡しすることになる。

議論していると、どうしてもその時の議論に集中してしまうので、そういえば過去3回でこういう議論をしていたなど、良くまとめていただいたと思う。今日出た意見をまた次回までにまとめてもらって、次回それに対して皆様のご意見をいただければと思う。

皆さん今、目を通していただいてご意見をいただきたい。

【委員】

今日出た意見がこれから反映されると思うが、例えば5ページ目の市民協働による企画運営というところで、先日共同のまちづくり推進計画書を市長の方へ報告したが、共同のまちづくり拠点としての役割は非常に重要になってくるのかなと思う。そこでホールの企画運営に関わるということだけでなく、共同のまちづくりを行う場として、開かれている、オープンであることが重要かなと思う。日常的に行けて活用されているようなホールであるような使われ方がイメージできるような感じであればいいと思う。

【委員】

ほかにこんなことを付け加えてもらえればというような意見でも構わない。

【委員】

6 ページあたり、ホールだけではなくて、ホール以外のホワイエだったりホールの中のいろんな場所が活用対象となると思うので、それらホール以外の施設の活用も書かれていたらいと思う。例えば厚生会館のピロティでワークショップ終了後に石垣を眺めながらティータイムをやったことがある。例えばカフェみたいなものがあの場所でできれば、日ごろから人が集まってくるので、そういう活用もどこかに書けるといいなど。

【委員】

改修にしる新たに作るにしる、できた後の運用の仕方ということに繋がると思う。ハード的にそういうことがしにくいようであると、今〇〇委員がおっしゃったことがしづらくなると思う。県立劇場でももともと女子大学があった場所で、正面以外は塀に囲まれていた。今はずいぶん見通しも良くなったが、この塀を取っ払って近所の方が来れるようにしたらと言っていたが、なかなか管理上の問題で実現していない。〇〇委員が言われるのもホールやホール以外の場所にしても市民が日ごろから身近に行けるような空間にしたいということも盛り込んでいただければというご意見だったかと思う。

【委員】

文化協会を代表して出席させていただいているので、ホールだけでなく、八代は展示のできる場所がない。展示の方々は非常に多いのに、展示できる場所が今は東京画廊、ゆめタウンぐらいしかない。もっともっと展示ができるスペースが欲しい。玉名の古い会館はとても広い展示会場が供えられていた。人が集まるような空間のあるホールができないかなと思う。

【委員】

私の思いつきだが、今の厚生会館をそういうことに活用できないかと思ったりする。それこそ先ほど話にでた古民家再生みたいなことも考えたらどうかと思う。

【委員】

6 ページの最後の部分、「教育として」を「教育の場として」としたほうが良いのではないか。

【委員】

まだまだ十分にお読みいただいていないと思うので、次回もそういったご意見をいただく時間があるので、持ち帰って目を通していただき、次の検討会でご指摘いただければと思う。

その後 八代市厚生会館視察